

## 第3章 道南地域の地域特性・現況

本計画を策定するにあたり、考慮すべき地域特性や地域の現況について整理する。



| 3-1 | 地域の概要

| 3-2 | 人口

| 3-3 | 通勤・通学の状況

| 3-4 | 買い物の状況

| 3-5 | 医療機関への受療の状況

| 3-6 | 観光の状況

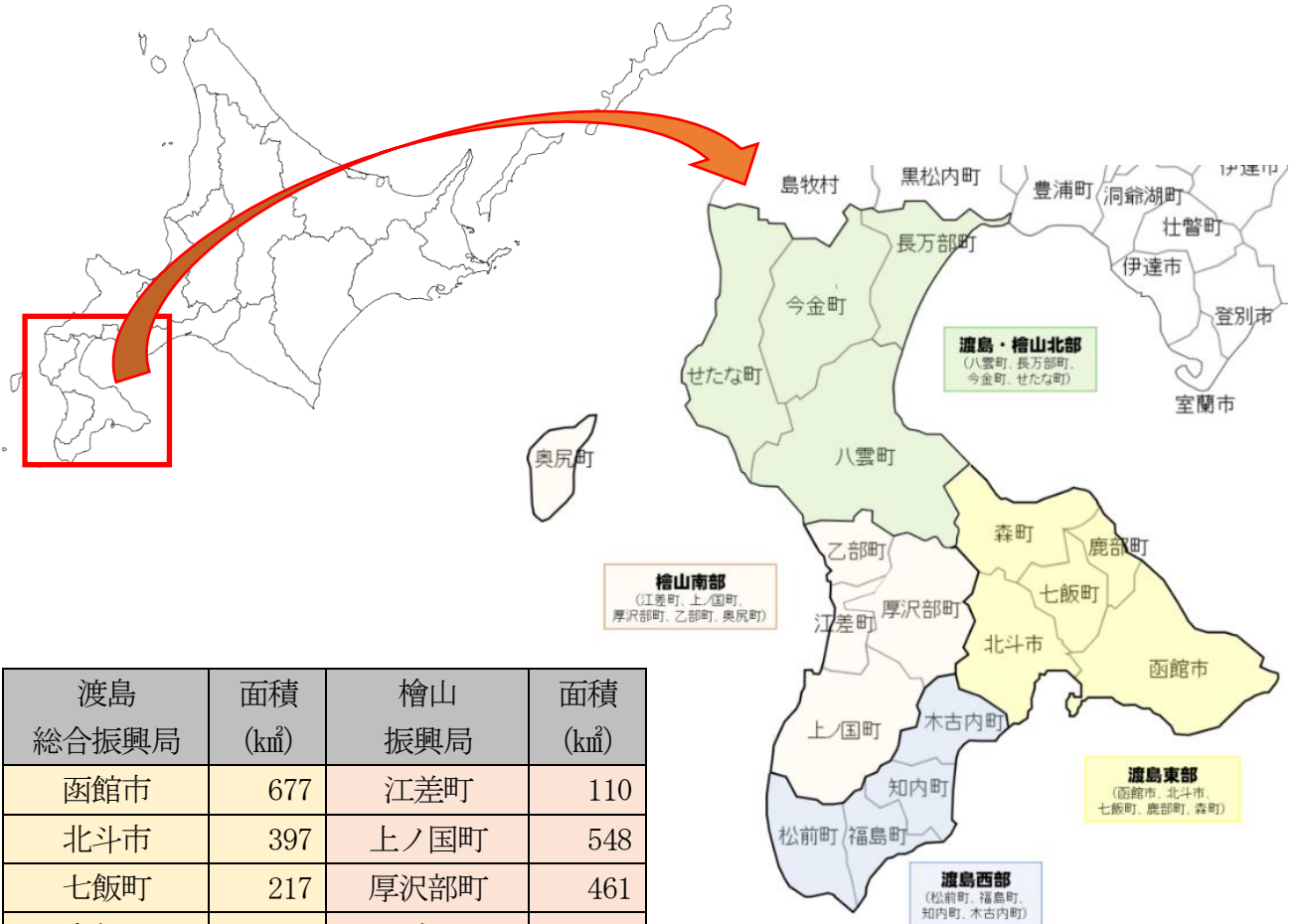
| 3-7 | 運転免許の状況

| 3-8 | 地域特性・現況から見える課題

### | 3-1 | 地域の概要

#### (1) 道南地域の位置・面積

本地域は、北海道南西部の渡島半島に位置し、東側の「渡島総合振興局管内」（以下「渡島地方」という。）と、西側の「檜山振興局管内」（以下「檜山地方」という。）の2市16町で構成されており、面積は約6,569 km<sup>2</sup>となっている。



渡島 総合振興局	面積 (km <sup>2</sup> )	檜山 振興局	面積 (km <sup>2</sup> )
函館市	677	江差町	110
北斗市	397	上ノ国町	548
七飯町	217	厚沢部町	461
鹿部町	111	乙部町	163
森町	369	奥尻町	143
松前町	293	せたな町	639
福島町	187	今金町	568
知内町	197		
木古内町	222		
八雲町	956		
長万部町	311		
<b>計2市9町</b>	<b>3,937</b>	<b>計7町</b>	<b>2,632</b>
合計：6,569 km <sup>2</sup>			

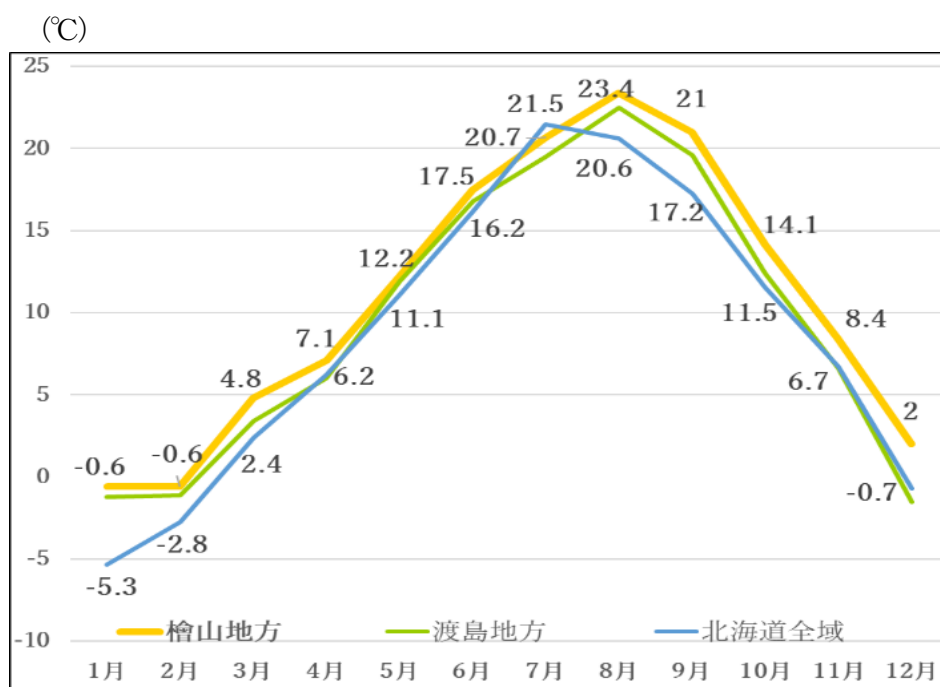
図 3-1 道南地域の各市町村の位置・面積





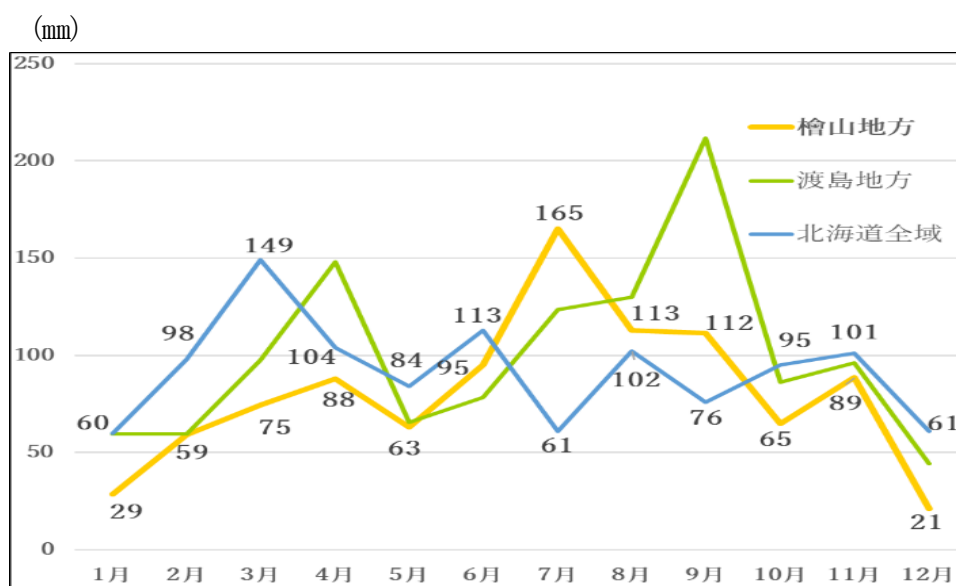
### (3) 道南地域の気候

本地域は、北海道南西部に位置していることから、全般的に寒暖の差が小さく、温暖な気候であり、積雪も比較的少ない地域であるが、渡島半島を挟んで南西側(日本海側)・南東側(太平洋側)の両方から暖かく湿った空気が入りやすいため、降水量は比較的多い。



【出典】国土交通省気象庁(令和2年)

図 3-3 道南地域の平均気温



【出典】国土交通省気象庁(令和2年)

図 3-4 道南地域の平均降水量

## | 3-2 | 人口

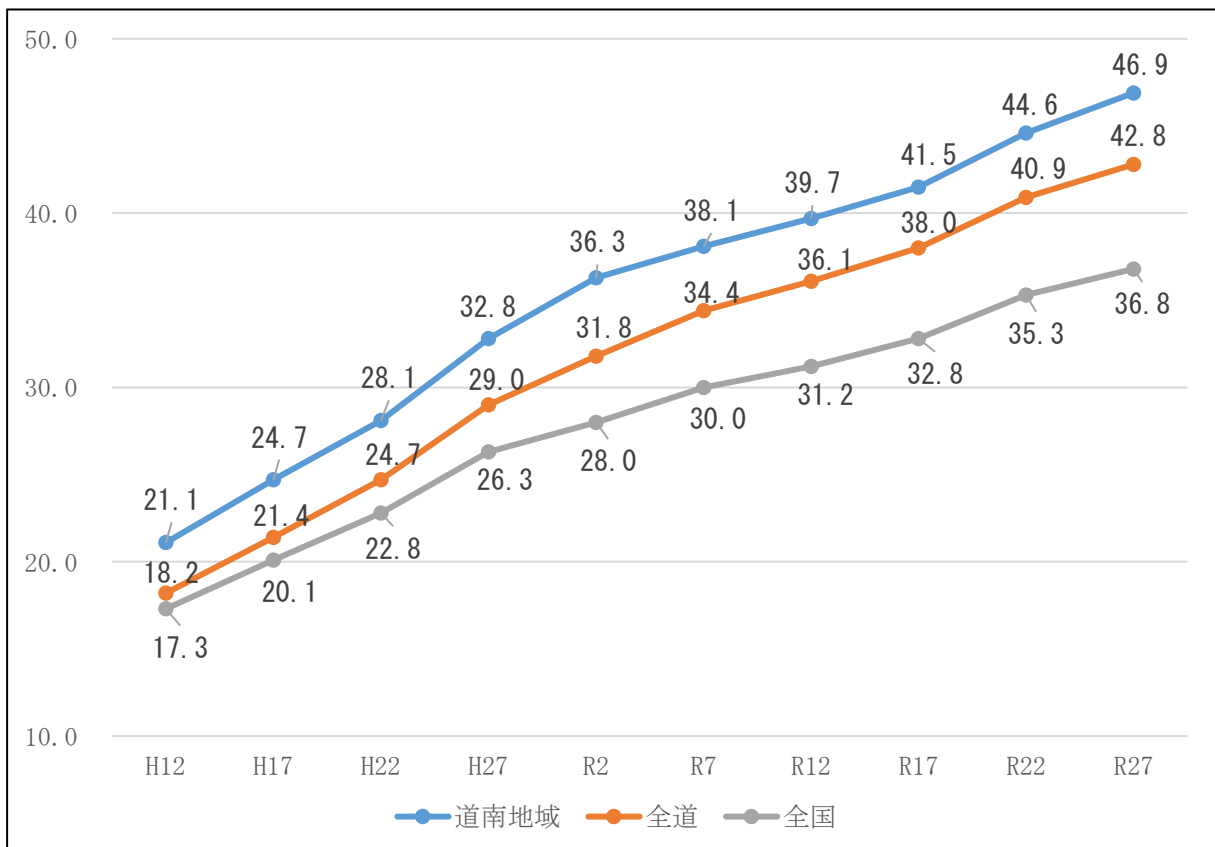
本地域の人口は、平成12年（2000年）の約515千人から令和2年（2020年）の約413千人に、10年間で20.6%減少しており、さらに令和22年（2040年）の推計は約284千人となり、今後20年でさらに30.6%減少する見込みとなっている。

人口減少を年代別に見ると、「65歳以上」の人口より、「64歳未満」の人口の減少幅が大きいことから、今後、さらに高齢化が進行すると考えられる。

### [全体]

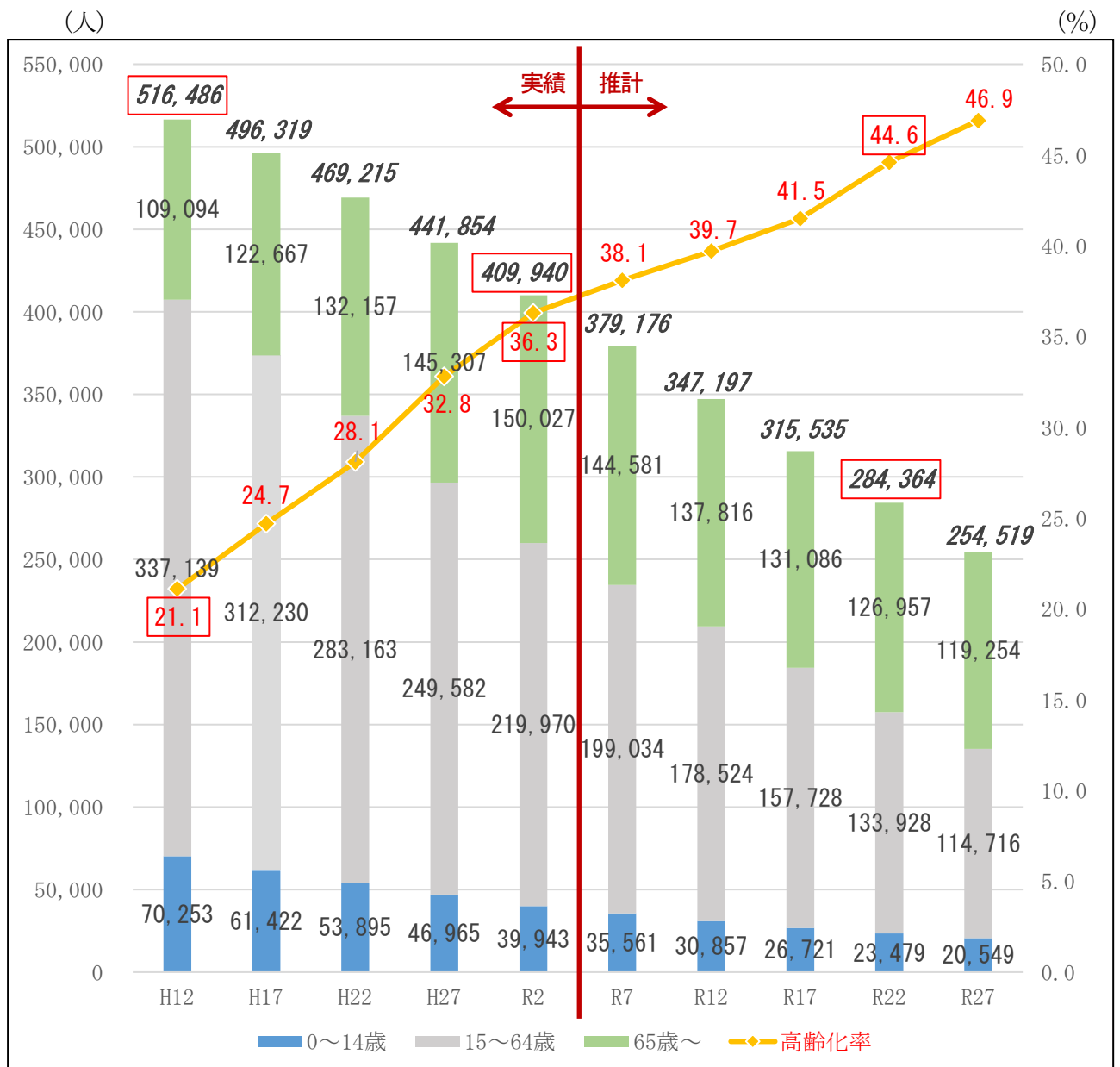
- 本地域の高齢化率は、平成12年（2000年）から令和2年（2020年）にかけて15.2ポイント高くなっており、さらに令和22年（2040年）の推計では、さらに8.3ポイント高くなる見込みとなっている。
- 全道・全国と比較しても、高齢化率は高く、また、高齢化の進行が早いと予測されている。
- 本地域の人口は、平成12年（2000年）から令和2年（2020年）にかけて20.6%減少しており、さらに令和22年（2040年）の推計では、さらに30.6%減少する見込みとなっている。

(%)



【出典】総務省「国勢調査」（令和2年）、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来人口」（平成30年推計）ほか

図 3-5 高齢化率の推移

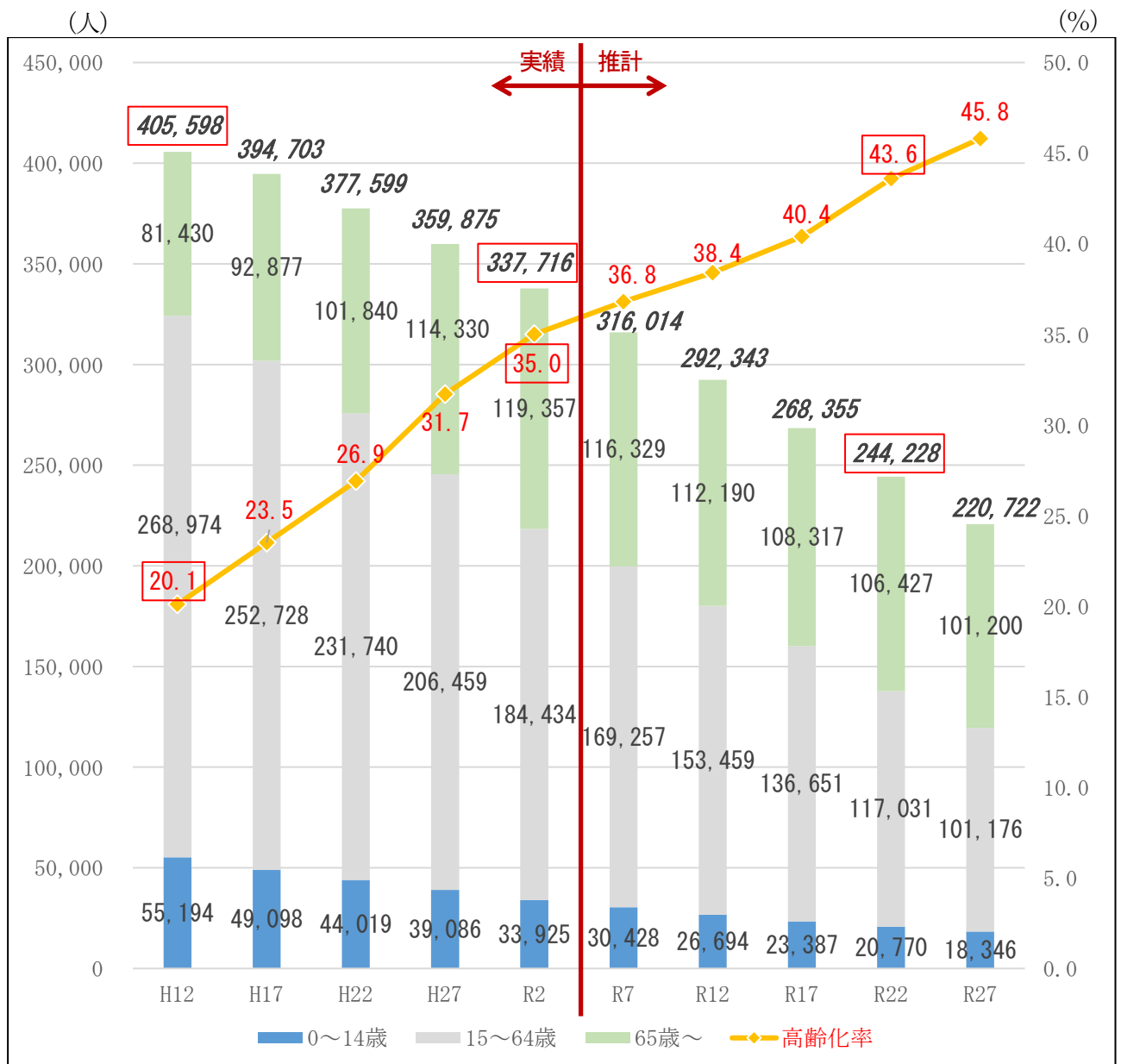


【出典】総務省「国勢調査」（令和2年）、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来人口」（平成30年推計）ほか

図3-6 道南地域の人口と高齢化率の推移

**[渡島東部]**

- 渡島東部圏の高齢化率は、平成12年（2000年）から令和2年（2020年）にかけて14.9ポイント高くなっており、さらに令和22年（2040年）の推計では、さらに8.6ポイント高くなる見込みとなっている。
- 渡島東部圏の人口は、平成12年（2000年）から令和2年（2020年）にかけて16.7%減少しており、さらに令和22年（2040年）の推計では、さらに27.7%減少する見込みとなっている。
- 高齢化率の上昇、人口の減少ともに、道南地域全体と比較して、低い水準で推移しているが、高齢化率は、全国・全道と比較して高い。

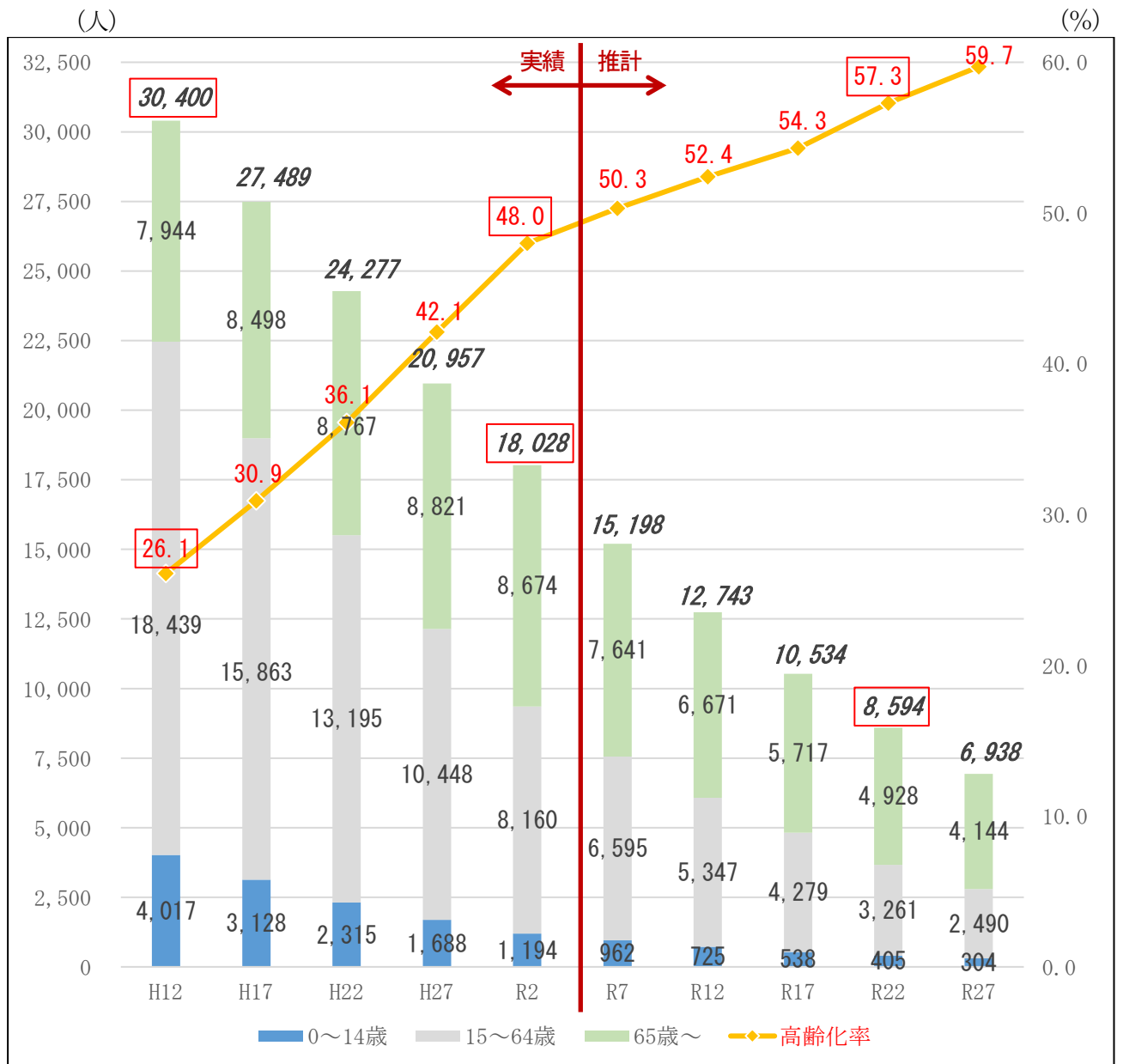


【出典】総務省「国勢調査」（令和2年）、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来人口」（平成30年推計）ほか

図3-7 渡島東部圏の人口と高齢化率の推移

**[渡島西部]**

- 渡島西部圏の高齢化率は、平成12年（2000年）から令和2年（2020年）にかけて21.9ポイント高くなっており、さらに令和22年（2040年）の推計では、さらに9.3ポイント高くなる見込みとなっている。
- 渡島西部圏の人口は、平成12年（2000年）から令和2年（2020年）にかけて16.7%減少しており、さらに令和22年（2040年）の推計では、さらに27.7%減少する見込みとなっている。
- 高齢化率の上昇、人口の減少ともに、道南地域全体と比較して、高い水準で推移しており、高齢化率も、全国・全道と比較して高い。



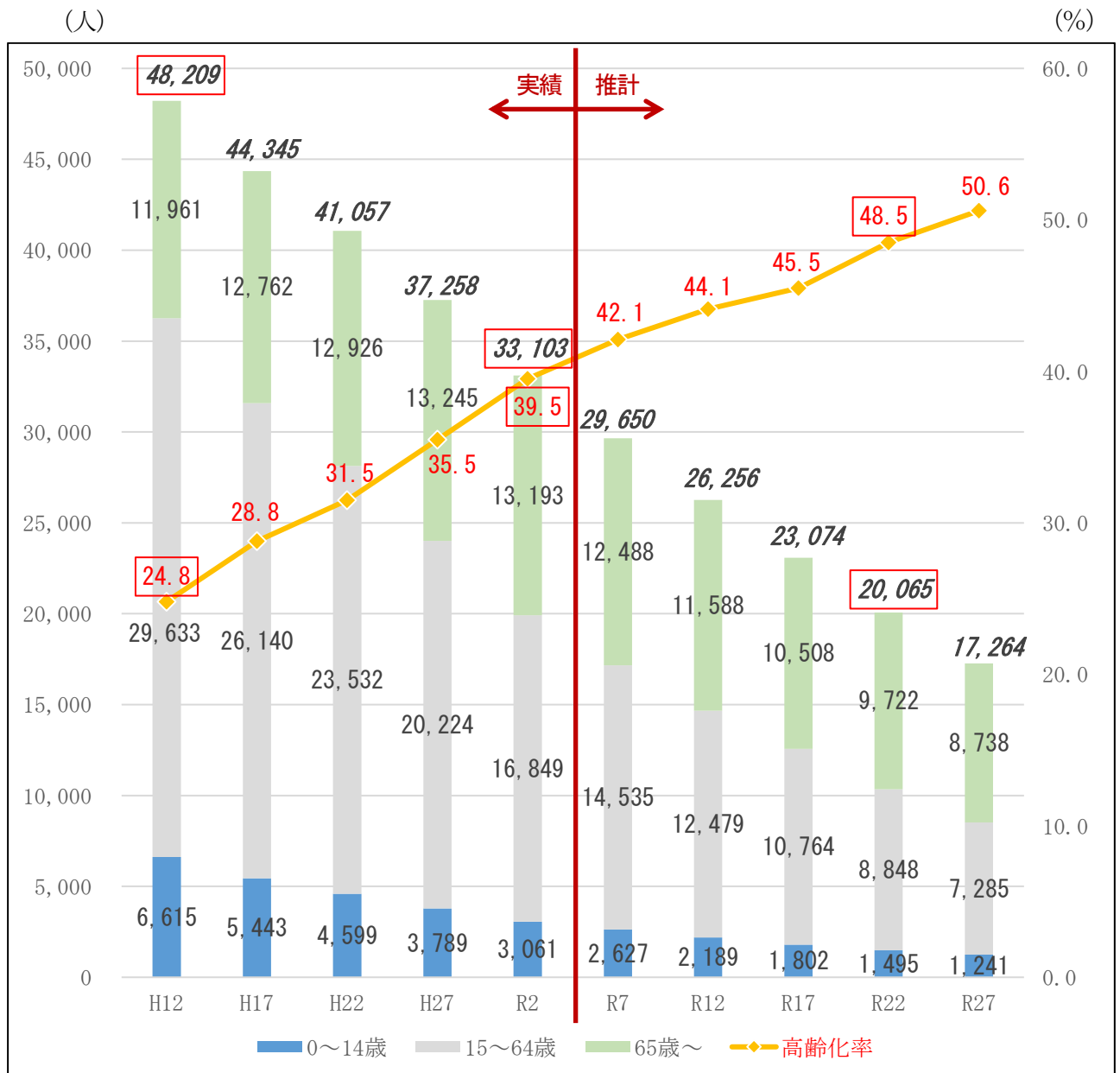
【出典】 総務省「国勢調査」（令和2年）、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来人口」（平成30年推計）ほか

図3-8 渡島西部圏の人口と高齢化率の推移

[渡島・檜山北部]

- 渡島・檜山北部圏の高齢化率は、平成12年（2000年）から令和2年（2020年）にかけて14.7ポイント高くなっており、さらに令和22年（2040年）の推計では、さらに9.0ポイント高くなる見込みとなっている。
- 渡島・檜山北部圏の人口は、平成12年（2000年）から令和2年（2020年）にかけて31.3%減少しており、さらに令和22年（2040年）の推計では、さらに39.4%減少する見込みとなっている。
- 高齢化率の上昇、人口の減少ともに、道南地域全体と比較して、高い水準で推移しており、高齢化率も、全国・全道と比較して高い。



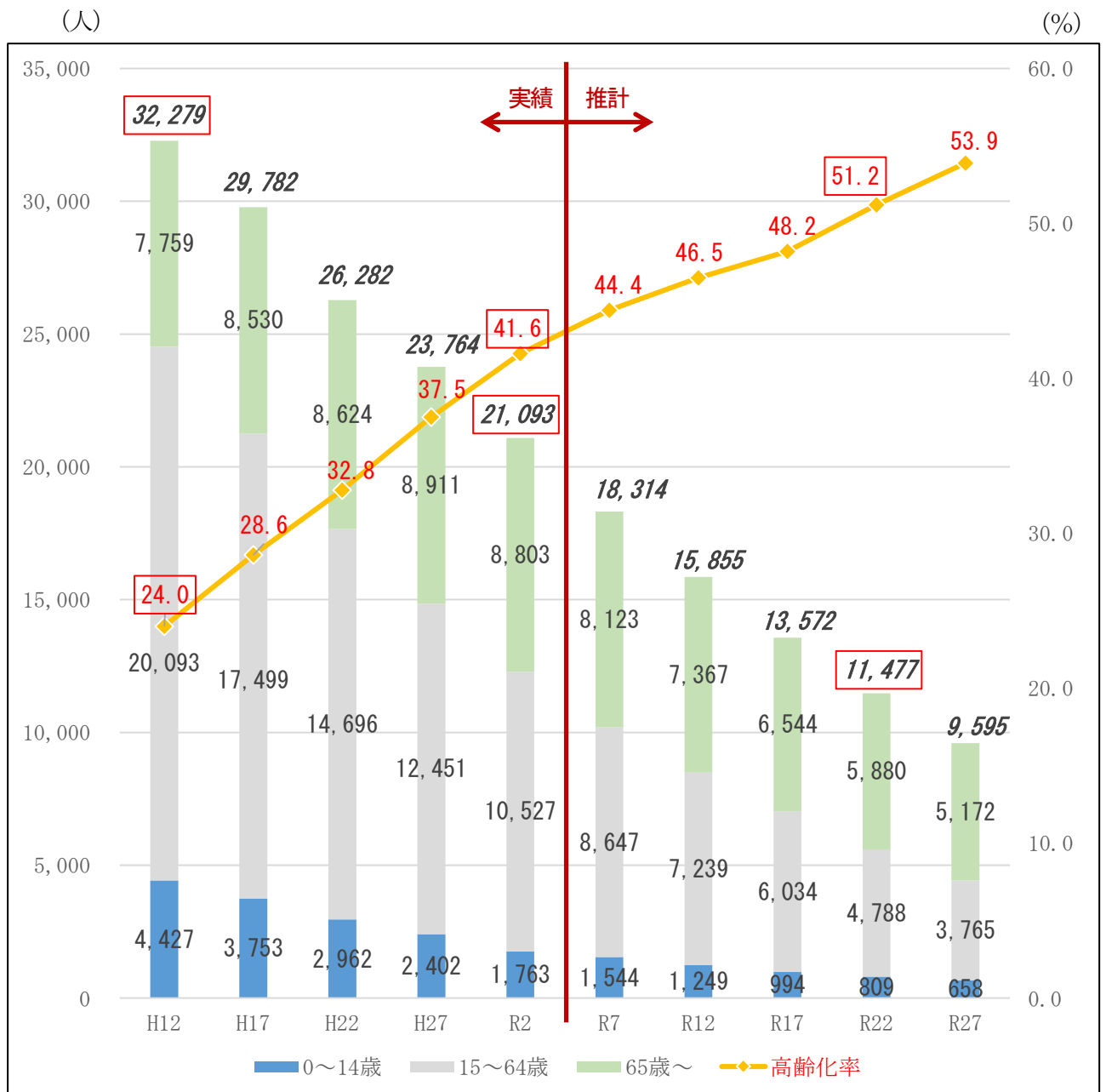


【出典】総務省「国勢調査」（令和2年）、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来人口」（平成30年推計）ほか

図3-9 渡島・檜山北部圏の人口と高齢化率の推移

【檜山南部】

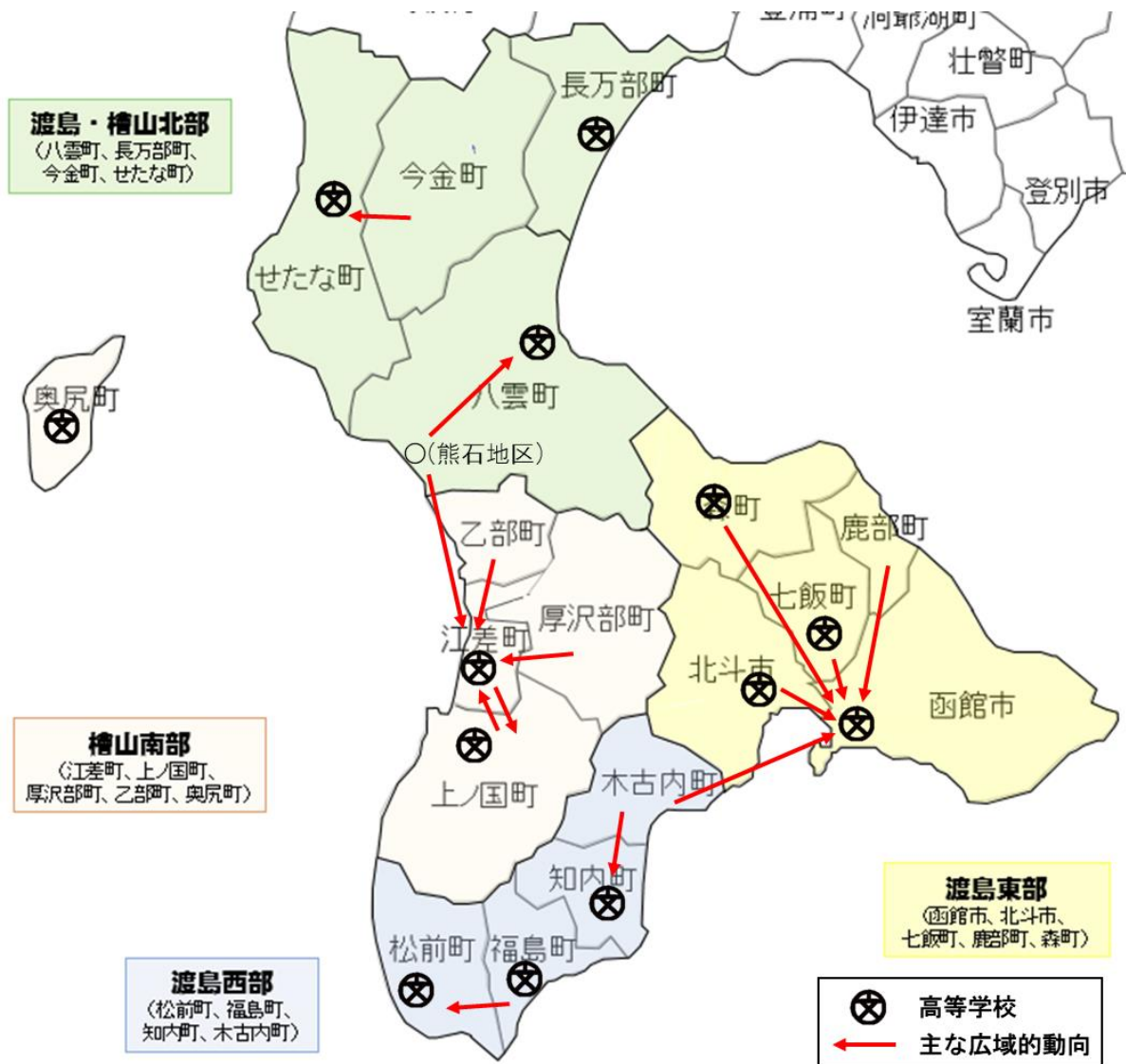
- 檜山南部圏の高齢化率は、平成12年（2000年）から令和2年（2020年）にかけて17.6ポイント高くなっており、さらに令和22年（2040年）の推計では、さらに9.6ポイント高くなる見込みとなっている。
- 渡島・檜山北部圏の人口は、平成12年（2000年）から令和2年（2020年）にかけて34.7%減少しており、さらに令和22年（2040年）の推計では、さらに45.6%減少する見込みとなっている。
- 高齢化率の上昇、人口の減少ともに、道南地域全体と比較して、著しく高い水準で推移しており、高齢化率も、全国・全道と比較して著しく高い。



【出典】総務省「国勢調査」（令和2年）、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来人口」（平成30年推計）ほか

図 3-10 檜山南部圏の人口と高齢化率の推移





【出典】 渡島総合振興局・檜山振興局アンケートなど

図 3-12 道南地域の高校の通学に係る広域的動向

表 3-1 道南地域の高等学校一覧

圏域	市町名	高等学校名	所在地
渡島東部圏	函館市	北海道函館中部高等学校	函館市時任町 11-3
		北海道函館西高等学校	函館市元町 7-17
		北海道南茅部高等学校	函館市川汲町 1560
		北海道函館工業高等学校	函館市川原町 5-13
		北海道函館商業高等学校	函館市昭和 1 丁目 17-1
		市立函館高等学校	函館市柳町 11-5
		函館ラ・サール高等学校	函館市日吉町 1 丁目 12-1
		遺愛女子高等学校	函館市杉並町 23-11
		清尚学院高等学校	函館市亀田本町 5-17

圏域	市町名	高等学校名	所在地
		函館大谷高等学校	函館市鍛冶1丁目2-3
		函館大妻高等学校	函館市柳町14-23
		函館白百合学園高等学校	函館市山の手2丁目-3
		函館大学附属有斗高等学校	函館市湯川町2-43-1
		函館大学附属白陵高等学校	函館市柏木町1-34
	北斗市	北海道上磯高等学校	北斗市中野通3丁目6-1
		北海道大野農業高等学校	北斗市向野2丁目26-1
		北海道函館水産高等学校	北斗市七重浜2丁目15-3
	七飯町	北海道七飯高等学校	亀田郡七飯町鳴川5丁目13-1
	鹿部町	—	
森町	北海道森高等学校	茅部郡森町字上台町326-48	
渡島西部圏	松前町	北海道松前高等学校	松前郡松前町字大磯174-1
	福島町	北海道福島商業高等学校	松前郡福島町山岳161
	知内町	北海道知内高等学校	上磯郡知内町字重内984
	木古内町	—	—
渡島・檜山北部圏	八雲町	北海道八雲高等学校	二海群八雲町住初町88
	長万部町	北海道長万部高等学校	山越郡長万部町栄原143-1
	今金町	北海道今金高等養護学校	瀬棚郡今金町今金454-1
	せたな町	北海道檜山北高等学校	久遠群せたな町北檜山区丹波360
檜山南部圏	江差町	北海道江差高等学校	檜山郡江差町伏木戸町460-1
	上ノ国町	北海道上ノ国高等学校	檜山郡上ノ国町大留351
	厚沢部町	—	—
	乙部町	—	—
	奥尻町	北海道奥尻高等学校	奥尻郡奥尻町赤石411-2

表3-2 道南地域の大学・短大・高専・専門学校・専修学校一覧

圏域	市町名	種別	学校名	所在地
渡島東部圏	函館市	大学	北海道大学(水産学部)	函館市港町3丁目1-1
			北海道教育大学函館校	函館市八幡町1-2
			公立はこだて未来大学	函館市亀田中野町116-2
			函館大学	函館市高丘町51-1
		短大	函館大谷短期大学	函館市鍛冶1丁目2-3
			函館短期大学	函館市高丘町52-1
		高専	函館工業高等専門学校	函館市戸倉町14-1
		専門学校	函館市立函館病院高等看護学院	
函館短期大学付設調理製菓専門学校	函館市柏木町7-25			



圏域	市町名	種別	学校名	所在地
			函館看護専門学校	函館市柏木町1-60
			函館厚生院看護専門学校	函館市本町33-2
			函館歯科衛生士専門学校	函館市柏木町1-60
			函館理容美容専門学校	函館市中島町31-25
			函館臨床福祉専門学校	函館市美原1丁目15-1
		専修学校	函館視力障害センター	函館市湯川町1丁目35-20
			市立函館病院高等看護学院	函館市港町1-5-15
		専修学校ロシア極東大函館校	函館市元町14-1	
	北斗市	—	—	—
	七飯町	—	—	—
	鹿部町	—	—	—
	森町	—	—	—
渡島西部圏	松前町	—	—	—
	福島町	—	—	—
	知内町	—	—	—
	木古内町	—	—	—
渡島・檜山北部圏	八雲町	—	—	—
	長万部町	大学	東京理科大学	山越郡長万部町富野102-1
	今金町	—	—	—
	せたな町	—	—	—
檜山南部圏	江差町	専修学校	江差高等看護学院	檜山郡江差町字伏木戸町483
	上ノ国町	—	—	—
	厚沢部町	—	—	—
	乙部町	—	—	—
	奥尻町	—	—	—

## ア 通勤・通学者に関する移動実態について

### [全体]

- ・本地域では、北斗市、七飯町以外は自市町内での通勤・通学者の割合が高く、また、檜山南部は最も他市町への通勤・通学者の割合が高い。
- ・地域全体の生徒数は減少傾向にあるが、渡島地方の鉄道通学者は横ばい、バス通学者は微増傾向にある。

### [渡島東部圏]

- ・北斗市、七飯町以外は自市町内での通勤・通学者の割合が高い。
- ・函館市は道南地域の中核都市であり、企業や学校が複数立地することから、函館市内で

の通勤・通学者数の割合が高い。

**[渡島西部圏]**

- ・渡島西部圏は、自町内での通勤・通学者の割合が高い。
- ・木古内町は、隣接する渡島東部圏への通勤・通学が多く、他市町村への移動割合が渡島西部圏の中で最も高い。

**[渡島檜山北部圏]**

- ・渡島檜山北部圏は、自町内での通勤・通学者の割合が高い。

**[檜山南部圏]**

- ・江差町に国・道の出先機関のほか、道立江差高校等が所在するため、町内に加え、近隣町から江差町に通勤・通学をする住民が多い。

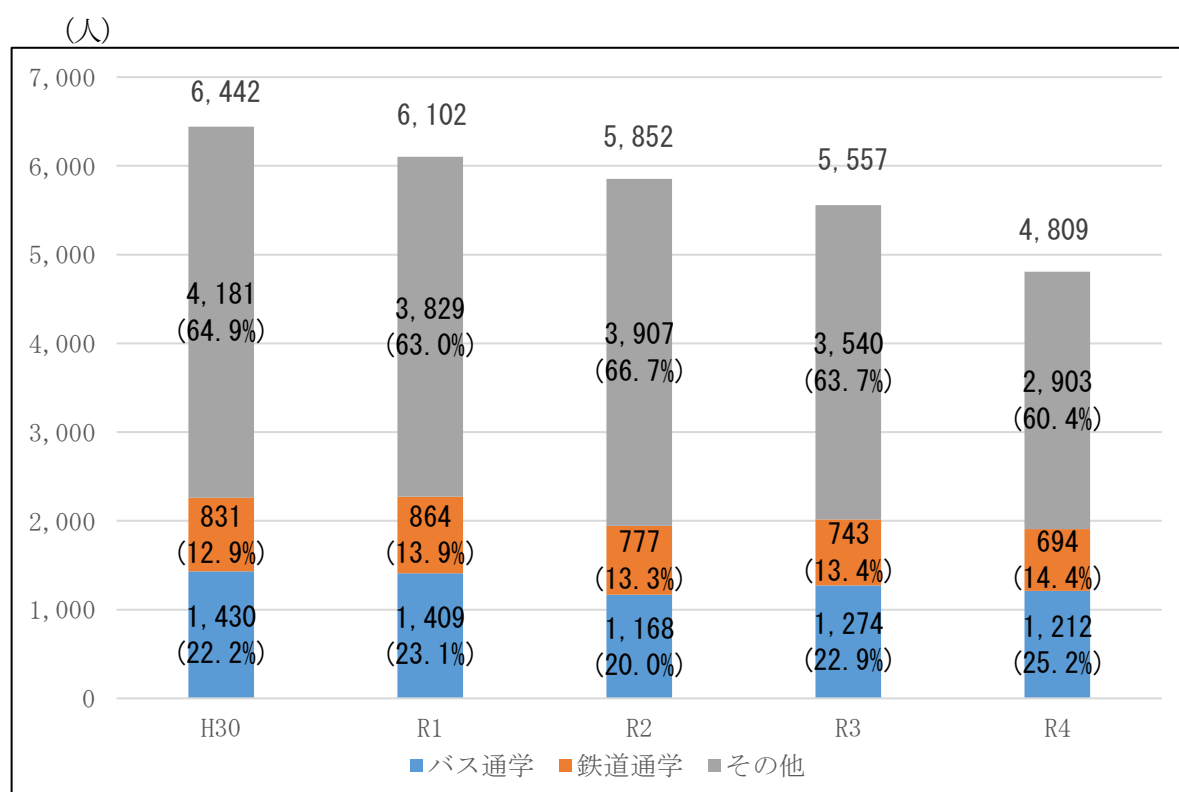
表 3-3 道南地域の通勤・通学者

(人)

圏域	市町名	人口 (R2年)	生産年齢 人口 (R2年)	通勤・通学者数			通勤・通学 していない
				自市町	他市町村	その他	
渡島東部圏	函館市	251,084	134,953	87,655 (65.0%)	9,079 (6.7%)	15,471 (11.5%)	22,748 (16.9%)
	北斗市	44,302	25,434	9,266 (36.4%)	10,071 (39.6%)	1,746 (6.9%)	4,351 (17.1%)
	七飯町	27,686	14,743	4,480 (30.4%)	6,274 (42.6%)	470 (31.9%)	3,519 (23.9%)
	鹿部町	3,760	1,901	1,165 (61.3%)	358 (18.8%)	10 (0.5%)	368 (19.4%)
	森町	14,338	7,403	5,083 (68.7%)	939 (12.7%)	67 (0.9%)	1,314 (17.8%)
渡島西部圏	松前町	6,260	2,611	1,770 (67.8%)	226 (8.7%)	42 (1.6%)	573 (22.0%)
	福島町	3,794	1,711	980 (57.3%)	291 (17.0%)	61 (3.6%)	379 (22.2%)
	知内町	4,167	2,160	1,419 (65.7%)	343 (15.9%)	146 (6.8%)	252 (11.7%)
	木古内町	3,832	1,678	886 (52.8%)	408 (24.3%)	95 (5.7%)	289 (17.2%)
渡島・檜山 北部圏	八雲町	15,826	8,504	6,378 (75.0%)	515 (6.1%)	442 (5.2%)	1,169 (13.8%)

	長万部町	5,109	2,507	1,943 (77.5%)	210 (8.4%)	34 (1.4%)	320 (12.8%)
	今金町	5,072	2,515	1,791 (71.2%)	278 (11.1%)	107 (4.3%)	339 (13.5%)
	せたな町	7,398	3,323	2,522 (75.9%)	294 (8.8%)	20 (0.6%)	487 (14.7%)
檜山南部圏	江差町	7,428	3,950	2,488 (63.0%)	572 (14.5%)	221 (5.6%)	669 (16.9%)
	上ノ国町	4,306	2,047	1,070 (52.3%)	577 (28.2%)	17 (0.8%)	383 (18.7%)
	厚沢部町	3,592	1,713	1,083 (63.2%)	379 (22.1%)	2 (0.1%)	249 (14.5%)
	乙部町	3,403	1,567	790 (50.4%)	547 (34.9%)	10 (0.6%)	220 (14.0%)
	奥尻町	2,410	1,250	1,058 (84.6%)	6 (0.5%)	1 (0.1%)	185 (14.8%)
合計		413,767	219,970	131,827 (59.9%)	31,367 (14.2%)	18,962 (8.6%)	37,814 (17.1%)

【出典】総務省「令和2年国勢調査」



【出典】北海道教育庁渡島教育局・檜山教育局「生徒の実態等に関する調査」

図 3-13 道南地域の普通高校の生徒数の推移

## イ 通勤・通学の移動手段について

[全圏域共通]

- ・本地域における通勤・通学時の移動手段は、自家用車が最も多い。

表 3-4 道南地域における通勤・通学の主な移動手段

(%)

圏域	市町名	通勤・通学時の主な移動手段				
		路線バス	鉄道	自家用車	自転車、 徒歩	その他
渡島東部圏	函館市	19.5	3.9	57.1	36.4	6.5
	北斗市	3.1	0.8	88.6	7.6	0.8
	七飯町	11.6	9.9	92.2	24.0	4.4
	鹿部町	7.9	7.9	84.6	29.1	3.4
	森 町	1.9	3.3	78.0	14.2	2.6
渡島西部圏	松 前 町	3.7	0.0	78.6	11.7	6.1
	福 島 町	4.2	0.0	87.5	0.0	8.3
	知 内 町	0.0	0.0	82.4	23.5	5.9
	木古内町	2.7	0.0	81.1	24.3	0.0
渡島・檜山 北部圏	八 雲 町	0.5	2.1	75.7	28.2	5.0
	長万部町	0.3	0.0	90.0	11.5	2.0
	今金町	3.8	0.0	72.7	46.4	11.5
	せたな町	3.7	0.0	79.9	44.1	5.1
檜山南部圏	江差町	4.8	0.0	74.7	30.1	7.1
	上ノ国町	0.9	0.0	83.9	24.1	6.3
	厚沢部町	4.1	0.0	75.9	29.7	8.3
	乙部町	4.6	0.0	75.6	29.2	11.5

※複数回答可能なため、合計が100%を越える場合がある。

【出典】北海道渡島総合振興局・北海道檜山振興局「公共交通アンケート」